## 1. 令和元年度若葉区利用状況報告

若葉区内8館の総利用人数は令和元年度では152,992人と前年度に比べ13,403人、率にして約8%も減少しております。しかし、ここにデータはありませんが、1月末現在では前年度に比べ2,064人、率にして約1.5%の減少に留まっており、新型コロナウイルス感染症の拡大による2月~3月の休館等が大きく影響しているものと思われます。延べ利用回数についても14,026回と、前年度比較しまして1,270回、率にして8.3%の大きな減少となっております。こちらについても、1月末現在で比較してみますと約420回、率にして約3.2%の減少に留まっており、大きな減少は休館の影響と考えられます。公民館毎に令和元年度と平成30年度を比較してみましても、すべての館で総利用人数・延べ利用回数ともに減少しております。ただ、1月末現在で比較しますと、千城台・みつわ台・若松公民館の3館が前年度を上回っており、利用者減少の歯止めの可能性が感じられます。

今後の公民館運営の方向性としては、これまでのように高齢層の利用者に頼らずに若年層や壮年層を意識した運営が必要となってくるものと考えます。加えて、近隣の学校と連携して小中高校生を公民館に呼び込む努力も必要となってくると思われます。

## 2. 令和元年度事業成果と令和2年度事業計画について

	公民館名	令和元年度事業成果	令和2年度運営方針	令和2年度事業計画 重点項目・特色	前年度からの改善点
	千城台公民館	前年度から5事業増え、25事業を開催することができた。 また、地域の社会福祉協議会や千葉市など、多彩な組織 と連携して開催することができた。	公民館の利用者増に努める中で、特に地域の子ども達を 集める取り組みに力を入れていく。	新型コロナ感染症の拡大のために当初計画していた7講座 を中止せざるを得ないが、成人向けの2講座と小学生向け 1講座を追加する。	隣接している若葉図書館と連携を密にし講座募集案内や 公民館情報の周知を図る。 また、年度計画には無いが、特に子ども達に人気のある 調理系の少年教育講座を検討する。
2	更科公民館	更科地区の特性を生かした事業展開を進めると共に、住 民相互の連帯を図り、さらに高齢化社会に対応した講座 等を充実させた。	区の特性を生かした事業展開を進めると共に、住民相互	豊かな自然環境を題材とする講座をより充実させる。 利用対象者の希望を基に講座内容を検討する。 今年度より実施されるアフタースクールとの連携を深め る。	四季の自然を題材とする撮影講座数を3から4に増加させ、バードウォッチング講座の予備日を設定する。 高齢者のアンケートを基にシニアライフ講座の内容を決定する。 アフタースクールのテニススクール開催場所を提供する。
;	白井公民館	少年教育では、より楽しさを体験してもらうため、前年度の6事業から囲碁・卓球・和菓子作りの新規事業3事業増やし、9事業とした。応募率も平均86%と成果が出た。	シニア層の利用増を図るとともに新規利用者の開拓を図 る。	・少年教育の充実を図るため、夏休み・冬休みに子どもの関心の高い講座を企画した。 ・従来の事業を充実させるとともに新しい利用者を開拓するため新規事業を企画した。	・評判の良かった講座を充実させた。 ・利用者の希望を取り入れた。
2	加曽利公民館	各種講座は、家庭教育・成人教育・少年教育など、バランスよく概ね実施できたが、周知不足で受講者が集まらず中止となったり、新型コロナウィルス感染防止に伴う休館等により、実施を見送った講座もあった。	新型コロナウィルス感染防止のため、利用者の3密防止 と館内の消毒に心がけ、クラブ活動の継続と主催事業の 実施に努める。	事業参加者のソーシャルディスタンスの確保が可能な講 座を企画・実施していきたい。	不人気講座や定員不足で中止した講座を廃止し、アンケート等で要望の多い講座を企画・充実する。
Ę	大宮公民館	市民ニーズを踏まえ県文書館と連携を行い、歴史講座を 実施した。また、ロビーギャラリーを工夫して学習情報 の提供や地域小学生作品展示を行うなど地域の交流促進 に努めた。	利用の少ない成人男性層の取り込みを図る。	成人教育で人気の高い健康問題や歴史講座の充実を図 る。ロビーギヤラリー・展示を工夫して地域の交流を促 進する。	評判の良い講座を充実させ、需要の少ない講座を見直して、新規事業を工夫する。
(	みつわ台公民館	計画では27の主催事業であったが、地域のニーズおよび リクエストに対応し4事業追加し、少年教育10、成人教育 9、高齢者社会7、地域住民向け5 合計31事業を実施し た。各世代それぞれに有効な広報媒体を利用して周知に 努めたため、概ね応募率は100パーセントを超えた。	幅広い世代の方が気軽に集うことができる公民館を目指す。 (重点項目) ・施設の環境整備の推進 ・利用率の低い男性層を狙った事業企画 ・子どもの居場所づくり	・上質な音楽に触れることのできる非日常の空間を提供。 ・生涯学習セター所蔵資料を活用し費用負担のない手作り 事業を企画。 ・公民館で活動する人材を活用した事業を企画。	地域のニーズに合わせ、追加講座を企画するなど、柔軟に対応。
5	若松公民館	多様な学習機会を提供するとともに、利用者の自発的な学習活動への援助に努めた。特に「子どもお菓子作りリーダー養成講座(全6回)」においては、子どもたちの主体的な活動の場を提供した。成果発表の「若松カフェ」では自らメニューを考えチラシ作りや会場の飾りつけ等を行った。多様な世代との交流の場となり地域住民に好評を行った。の活動を通して仲間との絆づくりが図られリーとしての自覚も芽生え、そば作り教室等様々な開座でも活動した。その結果千葉講座アワード(さわやかちば関アプザ主催)において「千葉県公民館連絡協議会長賞」を受賞することができた。	公民館を中心とした仲間作り、地域作りを狙った事業を 実施し、主体的な学びの場に導く。	将来の公民館利用者の発掘を目指し、中高生を対象とした「体幹トレーニング講座」を新設。サークルの創設・加入を目指した、全6回の連続講座の実施。ちば産学官連携プラットフォーム等、地域団体と協力し、地域連携を強化する。引き続き、2ヶ月前広報に努める。	運営懇談会委員や参加者アンケートの要望を基に、運動 系の講座や科学関連事業の内容を充実させる。(体操教 室(全6回)、スライム作り)
8	桜木公民館	着付けと千葉おどりでは、講座を通して地域の夏祭りと 公民館活動をつなげることができた。 秋冬のコンサートを聴衆参加型(歌声)としたことに よって、来館者の交流が図られ親睦的な催し事となっ た。	子育で世代や若牛曽同けの講座・行事を取り入れ、成人 層に加え幅広い年齢層の利用を促進する。	うよう工夫した。	前年度試験的に始めた講座について、アンケートに基づいて改善。親子参加や、性別の枠をなくすなど参加の間口を広げた。